



## 旅行的行事を終えて

各学年の旅行的行事が、それぞれ大きな成果をあげて終了しました。各学年生徒の事前の準備や事後の取組について、また、旅行中の様子などについて、各学年教諭からの報告と生徒作文でお伝えします。



### 1学年 校外学習

6月7日(金) 札幌市内自主研修、アサヒビール園(昼食)、  
青少年科学館

#### 「校外学習を終えて」

1学年教諭

今年度の校外学習は、「班単位での自主的な見学・学習を通して、ふるさと札幌の歴史、文化、産業などに対する広い知見と情操を養うとともに、現地での様々な活動を通して、公衆道徳や社会的マナーを養う。」というねらいのもと、午前は札幌市内で自主研修を行い、お昼はアサヒビール園でジンギスカン、午後は青少年科学館を見学する活動を行いました。

中学校生活初めての旅行的行事でありながら、「自主研修」という、生徒にとっては難易度の高い活動内容です。1学年教員は、学年のテーマを「共鳴」として、学年全体が響き合い高め合えるような集団となるよう取り組んでおり、それを生徒が現時点でどのくらい表現できるかを楽しみにしていました。

事前学習では、クロームブックなどを活用し、見学したい札幌市内の施設について、そこまでのルート、時間、交通費等について調べ、当日に向けて準備を行いました。

そして当日。入学して約2か月間の学校生活を振り返り、「時間に合わせて行動すること」「話をしっかり聴くこと」が課題に上がっていましたが、これをどのように改善していくのか。「真価」が問われる重要な一日となりました。

午前中の班別札幌市内自主研修では、予定通りにいかない部分もありましたが、何とか全班無事に昼食場所のアサヒビール園まで辿り着くことができました。課題を乗り越え絆を深めた仲間とテーブルを囲み、会話しながらジンギスカンを食べる生徒たちの顔には、とびきりの笑顔が溢れていました。

午後の青少年科学館では、午前の取組の反省を生かし、班でまとまって見学しようとする様子が見られました。集団としての意識や思いやりの気持ちをもって行動できるようになってきた証拠ではないでしょうか。確かにトラブルもありましたが、全員無事に大きな成果をあげて一日を終えることができました。

校外学習の活動全体を通して、「今、自分は何をすべきか」を考え、班員で声を掛け合いながら協力する姿や、仕事に責任をもって取り組む姿が見られたことが一番の収穫でした。

今年度、生徒が決めた学年目標は「つみき」です。つみきのように、どこまでも高く成果を積み上げられる学年を目指して、今後、校外学習の反省を十分にいかしてほしいと思います。そして、学年全体で「共鳴」できるよう、仲間を大切にして学校生活を送ってほしいと思っています。

最後になりましたが、校外学習の活動に対する御家庭、保護者の皆様の御理解と御協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 「校外学習で学んだこと」

生徒作文

私が校外学習で1番印象が強かったのは、午後に行った青少年科学館です。館内では、様々な分野の疑問の答えや仕組み、それらを使う遊びや体験などを通して、楽しみながら新たな知識を得ることができました。

中でも、宇宙の「惑星」についてのコーナーが私にとっては魅力的で楽しかったです。地球でジャンプした時は35cmの記録だったのに、他の惑星だと、ジャンプ力が低くなっていました。地球より記録が大きくなることはなかったのが私たちが暮らす地球は運動しやすく住みやすい星なのではないかと思いました。

午前中の、自主研修では、福山醸造工場に行きました。日本人にとってかかせない醤油の作り方や味、特徴などについて理解を深めることができました。醤油は様々な料理に使われるので、これからは少し意識して味わっていきたいです。現地に向かう際は、道に迷い、時刻に間に合わないなどのアクシデントもありましたが、臨機応変に対応することの大切さや仲間と協力してやり遂げる大切さを学ぶことができました。

校外学習全体を通して、事前準備の大切さや臨機応変さ、仲間と協力する大切さを学ぶことができ、校外学習で学んだことをこれからの学校生活に活かして行きたいです。



### 2学年 宿泊学習

6月5日(土) ニセコファーム体験、ルスツリゾート(宿泊)  
6月6日(土) 小樽市内自主研修

#### 「宿泊学習を終えて」

2学年教諭

今年度の宿泊学習は「農業体験やキャリア講演を通して、北海道の自然・食・文化・産業についての理解を深め、北海道の特色や魅力について学ぶ。」というねらいのもと、1日目はニセコ高橋牧場の高井さんによるキャリア講演会とニセコグリーンファームでのファーム体験、2日目は班別による小樽市内の自主研修という行程で行われました。

1日目のキャリア講演会では、牧場経営だけではなく、ニセコ町民の子育て支援や社員のメンタルケアに携わる高井さんのこれまでの経験から「やれないのではなくやらないだけ」という、思い通りにいかないときでも、夢を諦めず、挑戦することの大切さを学びました。

受験を意識し始めた子どもたちにとって、キャリア選択



の参考になったのではないかと思います。

ニセコグリーンファームでは、有機農業についてのお話や、ミント摘み、アスパラの収穫、えひめAI作りなど、身近にありながらもなかなか経験のなかった農業について学びました。ニセコグリーンファームの方が御好意で出してくれた茹でたジャガイモを、おいしそうにほおばっていた姿が印象的です。

ホテルでは、念願のキャンプファイヤーも行いました。うす暗い中、火を囲み、歌って踊るこの経験こそ、学生のうちにしかできない貴重な経験になったのではないかと思います。

2日目の小樽自主研修では、班員と協力して事前に立てた計画のもと、小樽の文化や歴史に触れることができました。急な昼食場所の変更などもあったそうですが、さすがは2年生、臨機応変に対応できました。

また、事前学習では体験先のことを調べるだけでなく、子どもたちから言葉を応募し、音楽科の村里先生が作詞・作曲してくれた「学年歌」や、その学年歌に担当の先生が振り付けしてくれた「学年ダンス」にも取り組みました。反省では多くの子どもたちが、学年歌の歌詞にもある「東月でよかった～」に○をつけており、学級、学年に居場所を見つけ、安心して宿泊学習に取り組むことができたのだと思います。

学年教員一同、この学年の子どもたちに無限の「可能性」を感じています。誰かのために一致団結して取り組み、人の心を動かす力をもっています。そんな無限の可能性を今回の宿泊学習では、いかに発揮していたと思います。学年スローガン「possibility」のもとこれからも子どもたちの無限の「可能性」を信じ、よりよい学校生活を目指していきます。

最後になりましたが、宿泊学習の活動に対する御家庭、保護者の皆様の御理解と御協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 「宿泊学習で感じたこと」

生徒作文

僕は宿泊学習に行って思ったことが3つあります。

1つ目は、宿泊学習に行けることが当たり前ではないということです。今回の宿泊学習では多くの方にお世話になりました。その人たちがいるからこそ、僕たちの宿泊学習が成り立っており、感謝の気持ちを忘れてはいけないと改めて思いました。

2つ目は、非日常が楽しいものだということです。宿泊学習中に先生が言っていた「非日常」という単語が最初はよくわかりませんでしたが、宿泊学習を通して、友達と泊まったり、キャンプファイヤーをしたりと日常ではやる機会のないことをやる非日常は、とても楽しいなと感じました。

3つ目は、ルールがあっても十分楽しいということです。ゲーム機やスマホを持ってこなくても、友達と話しているだけで十分楽しい宿泊学習でした。

宿泊学習を通して、キャリア講演やファーム体験で様々なことを学び、友達とのたくさんの思い出もできました。また行きたいです。



### 3学年「修学旅行」

- 5月20日① 盛岡手づくり村、盛岡つなぎ温泉(宿泊)
- 5月21日② 弘前市内自主研修、青森南田温泉(宿泊)
- 5月22日③ 秋田康楽館



### 「修学旅行を終えて」

3学年教諭

5月20日から2泊3日の日程で修学旅行が行われました。今年度の修学旅行では青森、秋田、岩手の3県を回り、東北地方の歴史や文化などに対する広い知見と情操を養うことを一つのテーマとしました。また、その中でこれまでの旅行的行事の経験をもとに一人一人が集団の一員としての役割を自覚して責任をもって行動すること、互いを思いやり、認め合い、今よりもさらに良い集団をつくり上げることをねらいとしました。

修学旅行は一般的に5月の中旬から下旬にかけて行われます。新年度が始まって慌ただしい4月や5月前半にゴールデンウィークがあることを考えると、実際は1ヶ月弱で準備をしなければならない行事です。生徒たちは、クラスが変わり、新しい仲間との関係を築けるかどうかの中で、自分たちが「今やらなければならないことは何か」や、「どうすれば時間のない中でも効率よくものごとを行うことができるのか」などをしっかりと考え、万全の準備で出発を迎えていました。

当日も全員がしおりを確認し、決して人任せにせず、互いに声をかけ合いながら、それぞれの見学場所やホテルでの時間を過ごしていました。その姿は「立派」の一言に尽きます。2日目の学年レクで大熱唱した SEKAI NO OWARI の『RPG』も忘れることはできないでしょう。帰着後、『本当に楽しかった。良い修学旅行だった。』という声を多く聞きました。それは、ただ単に楽しかったのではなく、みんなが一つになり、協力し合えたからこそ得られる楽しさや充実感だったのではないかと考えています。

今年度の3学年のスローガンは『秘密基地』です。これには『船旅』(一昨年度のスローガン)で見つけた『無人島』(昨年度のスローガン)で、楽しく過ごせる自分たちだけの秘密基地をつくらうという願いが込められています。今回の修学旅行がまさにその一歩になったのではないのでしょうか。3年生になり、学校の顔としての行動や活動が求められます。この素晴らしい経験を生かして、これからの日常生活や行事等で1、2年生を導いていくことができるようにと願っています。

### 「修学旅行で得たもの」

生徒作文

私は修学旅行で「考えて動く」ことの大切さを改めて学びました。学年副委員長という立場で初めての旅行的行事の集会の運営などを行いました。それは想像以上に大変なものでした。点呼はもちろん、学級への呼びかけや急な予定変更にも対応しなければならず、とにかく指示や連絡事項を聞き逃さないように一生懸命でした。

しかし、全部が全部大変だったわけではありません。手づくり村や自主研修では自分の新たな課題や目標を見つけることができました。康楽館ではレビューというショーを見学し、康楽館の舞台裏の装置の仕掛けやつくりなどを見て学ぶことができました。

そんな多くの貴重な体験を生かしきるには考えて動くことがとても大切だと思いました。その時の最良な判断をするには何を第一に考えると良いのかなど、修学旅行そして学年副委員長だからこそ体験できるものもありました。ですから、私はこれらの経験を生かし、今後の成長に繋げていきたいです。